

講演されたいいろいろの条件について検討させて頂く必要があると思います。

答：高橋 豊 障害結果を standardize する必要がある。そのために障害に対する感受性の高まっていることが予想される例では、障害条件をゆるめて障害程度が過剰にならぬように配慮することにより、脾選択性を保つ範囲として低張食塩水抵抗50%溶血0.6%NaCl sol 以下にすれば、手技による error はなくなり、その条件下においてなおかつ脾の摂取が不良で肝等の摂取を示す場合に、脾機能の低下と他臓器による代償を考えてよいものと考える。骨髓への摂取は熱処理血球の場合は比較的少なく MHP, NEM 障害法の場合に認められる例があった。

*

5. 造血機能に対する脾臓の影響

岩崎一郎

(岡山大学 平木内科)

⁵¹Cr または ²⁰³Hg MHP 標識変性赤血球を用いて再生不良性貧血患者（再不貧）の脾シンチグラム（「シ」）を行なうと、健康人、他の血液疾患にはみられない肝への残存像を認める症例（10/19）と脾残存像のみを認める症例（9/19）とがあった。肝への残存像は患者自身の赤血球のみならず健康人赤血球を使用してもえられることから、赤血球因子を除外して、造血器障害時の脾と肝網内系の相互依存性を察知することができた。更に ⁵¹Cr 標識赤血球半寿命の測定、網内系クリアランス（「ク」）、⁵⁹Fe 鉄代謝、骨髓像の検索より、臨床的に摘脾術が適応と考えられる再不貧例は、肝残存像のみられない、「ク」短縮、赤血球寿命短縮、骨髓赤芽球増生の比較的高度な教室分類Ⅰ型：骨髓内血球抑留型に属し、肝残存像がみられ、「ク」ほぼ正常、赤血球半寿命軽度短縮例は相対的に ACTH, ステロイドホルモン、輸血等の治療に反応するのではないかと考えられた。これらの臨床経験をうらざけるために、実験的造血器障害マウスを用いて、肝・脾・骨髓の網内系機能と造赤芽球機能との相関を検討した。

実験動物には純系雌性 ICR マウス、鉄代謝は ⁵⁹Fe ケン酸鉄、網内系機能検査は ⁵¹Cr 加熱処置同系マウス赤血球（「赤」）を用いた。

正常マウス鉄代謝では骨髓および脾の ⁵⁹Fe 摂取率は6時間を頂点に漸減、肝は6時間よりプラトーとなる。脾塗抹標本のラジオ・オートグラフィでは赤芽球細胞質内にグレインを見出した。⁵¹Cr 臓器摂取率は30～120分では経時的変動に有意差を認めず、肝・脾・骨髓の順に

摂取率が減少、単位重量当たりでは脾は肝の7倍に達した。

クロラムフェニコール（CP）5mg 朝夕2回3日間連続投与（CP3日群）で血清鉄上昇、P.I.D.T. 延長、網赤血球減少、⁵⁹Fe「赤」利用率低下、脾摂取率低下、骨髓摂取率不变を認め、CP によります脾における造血機能が抑制された。⁵¹Cr 法では「ク」正常、骨髓抑留低下、肝・脾の抑留亢進をみた。CP 5mg 30日投与すると骨髓摂取率の低下が著明になり、「ク」正常、骨髓・脾・肝の ⁵¹Cr 抑留は正常に回復した。摘脾10日後には ⁵⁹Fe 骨髓摂取率増加。⁵¹Cr「ク」延長、肝・骨髓の ⁵¹Cr「赤」抑留亢進を認めた。摘脾20日後には ⁵⁹Fe「赤」利用率軽度低下と骨髓摂取率の正常化傾向、⁵¹Cr「ク」延長、骨髓抑留増加傾向を示した。摘脾後 CP 大量投与は網内系機能の亢進傾向を惹起し、これが同時に骨髓造血の抑制を更につよめると考えられる成績をえた。人γ-Globulin 短縮並びに長期投与で血清鉄上昇、⁵⁹Fe「赤」利用率低下、骨髓 ⁵⁹Fe 摂取率低下、短期は網内系機能低下、長期は亢進を認めた。以上より貧血の発現即ち造赤芽球機能の低下と、骨髓、肝特に脾の網内系機能とは密接に相関していることが判明した。

追加：片山則孝（熊本大学河北内科）摘脾後に、脾スキャンと全く同様の操作を行なうことにより、網内系に及ぼす摘脾の影響を知ることができるのでないか。例えば、副脾の出現ないしその発育はもちろんのこと、特に、肝、骨髓等の R.I. 摂取の状態が変化していくのを、摘脾後長期間 follow up していくことが、ITP や HS 等において意義ある information を与えてくれることを経験している。

答：岩崎一郎 摘脾後の脾シンチグラムでは肝の関与が大きく、摘脾によって良い経過をとる場合には全体としてのクリアランスが延長しております。

私が摘脾の適度と考えている症例につきまもなく、摘脾を行ないますのでその結果を観察した上、報告いたします。

答：脾機能の骨髓造血に対する作用機序の問題は内分泌的あるいは抑制的など断言できない非常にむづかしい問題です。

永井先生の示された骨髓内 RES 系細胞の増加という現象の場合その RES 細胞はどのような態度を造血という問題に対して示すのかということが、このご質問に対する解答に何か関係があるように思いますかいかがでしょうか。少くとも脾網内系と骨髓網内系とは相反した態度をとるという結果を動物実験から得ております。